

第3回

富士山 世界遺産 セミナー

FUJISAN WORLD
HERITAGE SEMINAR

聖徳太子と富士山

プログラム

第3回富士山世界遺産セミナー 開催に当たって

松島 仁 | 静岡県世界遺産センター
整備課准教授

「“イデオロギー”としての
聖徳太子そして富士山」

講演1

阿部泰郎 | 名古屋大学人類文化遺産
テキスト学研究センター教授

「聖徳太子と富士山」

講演2

土屋貴裕 | 東京国立博物館学芸研究部
主任研究員

「聖徳太子絵伝に描かれた
東国—富士山を中心に—」

ブレ解説

大高康正 | 静岡県世界遺産センター
整備課准教授

「掛幅縁起とその絵解き」

聖徳太子絵伝絵解き実演

末松美咲 (名古屋大学大学院)

「太子と黒駒」

〈講演者略歴〉

阿部泰郎 (あべ やすろう)

名古屋大学人類文化遺産テキスト学研究センター教授。
専門は日本中世宗教文芸。『湯屋の皇后—中世の性と聖なるもの』(名古屋大学出版会, 1998年)、『聖者の推参—中世の声とココなるもの』(名古屋大学出版会, 2001年)、『中世日本の宗教テキスト体系』(名古屋大学出版会, 2013年)ほか著書多数。
富士市立博物館・六所家総合調査聖教分野の研究代表者もつとめる。

土屋貴裕 (つちや たかひろ)

東京国立博物館学芸研究部主任研究員。日本美術史専攻で、絵巻を中心としたやまと絵、説話画の研究を専門とする。東京国立博物館で「鳥獣戯画 京都高山寺の至宝」(2015年)等の特別展を担当。論文に「太子絵伝のある空間—法隆寺伝来の二つの聖徳太子絵伝—」(『明日香風』131号, 2014年)などがある。

古来、至高の存在として神格化されてきた聖徳太子。延喜17年(917)には聖徳太子の伝記『聖徳太子伝暦』も成立します。

中世には『聖徳太子伝暦』の注釈が活発に行われ、多くの聖徳太子伝や絵伝、肖像が再生産され、さまざまな“読み”が施されます。聖徳太子には王法(政治権力)と仏法(宗教権威)を統合した超越者のほか、観音菩薩の化身、共同体の理想的な始源、政治規範としての「十七条憲法」を定めた理想的な為政者、王権の危機を救う護国的英雄ほか多様なイメージが投影されました。聖徳太子こそは、観念を運ぶ“車”であり、観念の体系—イデオロギー—でした。

『聖徳太子伝暦』には、太子が甲斐国から献上された黒駒にまたがり雲に乗って富士山に登ったという伝説も記述されています。『聖徳太子伝暦』を絵画化した秦致貞筆「聖徳太子絵伝」(1069年・東京国立博物館)は、富士山を描いた現存最古の絵画作品として知られています。富士山を日本人の心性や美意識を歴史的に映し出してきた“日本の肖像”、日本という共同体を象徴的に可視化するアイコンとして位置づけるならば、現存最古の富士山絵画が聖徳太子に枠づけられていることは、多くの示唆を含んでいることでしょう。

第3回富士山世界遺産セミナーでは、富士山と聖徳太子をめぐる伝説について、聖徳太子伝・絵伝に高い知見をもつ国文学と美術史学の研究者による講演を行ったうえ、「聖徳太子絵伝」の絵解きも実演します。